

2012年11月24日
第九回国際日本語教育・日本研究シンポジウム
香港城市大学

パネルセッション
実践を「よりよく」するための実践研究
—日本語教育における実践研究のあり方を問う—

古屋憲章（早稲田大学）
橋本拓郎（香港大学）
吉田真宏（香港大學專業進修學院）

1. 本パネルセッションの概略と目的

- 本パネルセッションに至る経緯
 - 香港を中心に活動している『つながろうねっト』主催の日本語教育勉強会にて、古屋が実践研究をテーマとする対話型セッションを実施する。
▼
 - 勉強会終了後、自身の日本語教育実践を対象に実践研究を試みたい方を募る。
→橋本、吉田両名が応じる。
▼
 - 橋本、吉田両名の実践を対象とする実践研究に協働で取り組む。

1. 本パネルセッションの概略と目的

- 本パネルセッションの目的
 - 日本語教師（吉田、橋本）により行われた実践研究のプロセスを題材に、どのように実践研究を行うことで、実践がどのように「よりよく」なるか（＝日本語教育における実践研究のあり方）に関し、議論する。

2. 本パネルセッションの構成

- パネル1（担当：古屋）
日本語教育における実践研究はどのような営みか
 - 日本語教育における実践研究を定義した上で、その意義を述べる。
- パネル2（担当：吉田）
SNS（Facebook）を利用した教室内活動と教室外活動をつなぐ試み
- パネル3（担当：橋本）
日本語母語話者とのソーシャル・ギャザリングを通じた動機づけ
 - 自身が行った実践研究のプロセス（実践、実践の省察、省察に基づく次の実践の計画）を報告する。

2. 本パネルセッションの構成

● パネリスト間の議論

- 問い1：
実践研究のプロセス（実践→実践の省察→省察に基づく次の実践の計画）を記述した結果、どのような気づきがあったか。
- 問い2：
1の気づきを今後、どのように実践に活かしていくか。
- 問い3：
（1、2を踏まえ）自分にとって「よりよい」実践とはどのような実践か。

2. 本パネルセッションの構成

- 会場全体での議論

- 問い1：
皆さんにとって「よりよい」実践とは、
どのような実践か。
- 問い2：
「よりよい」実践を実現するために
何か実行していることがあるか。